

## 呼吸器感染症に対するloracarbefの臨床的検討

押谷 浩・三浦 洋・小林宏行

杏林大学医学部第一内科学教室\*

新経口カルバセフェム系抗生剤loracarbefを呼吸器感染症患者9例に使用し、有効性ならびに安全性の検討を行った。対象患者は肺炎2例、急性気管支炎1例、慢性気管支炎の急性増悪6例であり、臨床効果は有効7例、やや有効1例、無効1例であった。

本剤に起因すると思われる副作用、臨床検査値異常は認められなかった。

**Key words** : loracarbef, 経口カルバセフェム剤, 呼吸器感染症

新経口カルバセフェム系抗生剤であるloracarbef (LCBF)はグラム陽性菌からグラム陰性菌に対し、広範囲のスペクトルを有し、経口投与により優れた吸収を示すことが報告されている<sup>1)</sup>。

今回著者らはLCBFを使用する機会を得たので、9例の呼吸器感染症に本剤を投与し、その有効性および安全性について臨床的に検討した。

対象は1989年5月から同年8月までに当科を受診し、本人の自由意志による治験参加の同意が得られた9例の呼吸器感染症であり、年齢は53歳から84歳、平均69.8歳、男性4例、女性5例である。9例の疾患の内訳は肺炎2例、急性気管支炎1例、慢性気管支炎の急性増悪6例であり、重症度はすべて軽症であった。

投与方法は、本剤200mgを1日2回が2例、3回が6例、400mgを1日2回が1例で5～14日間経口投与した。

効果判定は、本剤投与前後の臨床症状を詳細に検討し、胸部X線所見、喀痰中細菌検査、臨床検査値の変動も併せて総合的に判断し、担当医により著効、有効、やや有効、無効の4段階により判定を行った。細菌学的効果は菌の消長により消失、減少、不変、菌交代、不明と判定した。以下に症例(Table 1)および臨床検査値の変動(Table 2)を呈示する。

症例1: 63歳男性、基礎疾患に肺線維症を有する症例、2日前より発熱。咳嗽も増悪し、膿性痰も認められ、胸部X線像で右下野に浸潤影を認め、肺炎と診断した。喀痰より、*Haemophilus influenzae*(++)を検出。本剤200mgを1日3回、7日間投与により解熱、喀痰の消失、CRP、赤沈も改善し、有効と判定した。

症例2: 68歳女性、10日前より微熱、咳嗽、膿性痰を認め、胸部X線像で右下野に浸潤影を認め、肺炎と診断。本剤200mgを1日3回、5日間投与により喀痰消

失、CRP、赤沈も改善し、有効と判定した。

症例3: 66歳女性、肺線維症にて経過観察中4日前より発熱、膿性痰出現。喀痰より*Moraxella*を検出し、呼吸困難を認め、急性気管支炎の診断。本剤200mgを1日3回、7日間投与により*Moraxella*消失、喀痰、呼吸困難、CRPも改善し、有効と判定した。

症例4: 62歳女性、慢性肝炎を基礎疾患として、4日前より発熱、膿性痰出現。喀痰より*H. influenzae*(+)、*Streptococcus pneumoniae*(+)両下肺野に浸潤影も認めた。本剤200mg1日3回、7日間の投与により解熱、喀痰も改善、*H. influenzae*、*S. pneumoniae*消失、白血球も正常化したので有効と判定した。

症例5: 53歳男性、約1年半前より塵肺の経過観察中たびたび増悪していた症例である。今回も発熱、咳嗽、膿性痰の増悪により来院。喀痰より*H. influenzae*検出。本剤200mg1日3回、7日間の投与により*H. influenzae*消失、解熱、喀痰の消失を認め、有効と判定した。

症例6: 77歳女性、気管支喘息にて経過観察中発熱、喀痰、咳嗽の増加、徐々に呼吸困難も増悪。本剤200mgを1日2回、7日間投与にて、解熱、白血球数、CRPも改善したが、咳嗽、喀痰の改善が認められなかったのでやや有効と判定した。

症例7: 84歳男性、気管支喘息にて経過観察中咳嗽、喀痰、発熱が増悪傾向となった。喀痰より*S. pneumoniae*(+)検出。本剤200mgを1日2回、7日間投与により解熱、喀痰、CRPの改善、*S. pneumoniae*も消失したので有効と判定した。

症例8: 77歳女性、基礎疾患のない慢性気管支炎で、2日前より発熱、咳嗽、膿性痰出現し、喀痰より*H. influenzae*(+)、*S. pneumoniae*(++)検出。本剤200mg1日3回、14日間の投与により解熱、喀痰の消失、



*H. influenzae*, *S. pneumoniae* 消失, 赤沈の改善が認められたので有効と判定した。

症例9: 78歳男性, 基礎疾患のない慢性気管支炎で, CFPX投与後, 3日前より発熱, 膿性痰出現し, 喀痰より *Klebsiella pneumoniae* 検出。本剤400mgを1日2回, 14日間投与するも自他覚所見に改善が認められず, *K. pneumoniae* も存続したので無効と判定した。

以上をまとめると9例中有効7例, やや有効1例, 無効1例であった。細菌学的には5例が単独菌, 2例が複数菌感染であり, 単独菌の *K. pneumoniae* は存続したが, *H. influenzae* 2株, *S. pneumoniae* 1株, *Moraxella* は消失し, 複数菌感染の2例いずれも *H. influenzae* と *S. pneumoniae* であったが, 本剤投与により消失した。

安全性に関しては, 検討した9例では臨床症状, 所見で本剤によると思われる副作用はなく臨床検査値の異常変動も認められなかった。LCBFはグラム陽性菌からグラム陰性菌まで広範囲の抗菌スペクトルを有し, その作用も殺菌的であり, 喀痰あるいは扁桃組織への移行も良好である<sup>1)</sup>ことを考慮し, 本成績をふまえて, 本剤は軽症ないし中等症の呼吸器感染症に対し, 有用性が期待できる薬剤であると思われた。

#### 文 献

- 1) 大森弘之, 原 耕平: 第40回日本化学療法学会西日本支部総会, 新薬シンポジウム。KT3777, 岡山, 1992

### Clinical study of loracarbef

Hiroshi Oshitani, Hiroshi Miura and Hiroyuki Kobayashi

First Department of Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine  
6-20-2 Shinkawa, Mitaka 181, Japan

The clinical efficacy and safety of Loracarbef (LCBF) in 9 patients with respiratory tract infections was evaluated. The subjects included 2 cases of pneumonia, 1 case of acute bronchitis and six cases of acute exacerbation of chronic bronchitis. Clinical response was good in 7 cases, fair in 1 case and poor in 1 case.

Neither side effects nor abnormal laboratory findings were observed. It might be suggested that LCBF, a new carbacephem, is a safe, useful antibiotic for the treatment of patients with respiratory tract infections.